

人材育成事業
「被ばくの瞬間から生涯」を見渡す放射線生物・医学の学際教育

●●● 集中講義 ●●●

「放射線の生体効果： 発ガン誘導と 抵抗性獲得メカニズム」

■代表的な放射線の生体影響である「発ガン」と「抵抗性獲得」をテーマとした3日間の集中講義です。前半では、「通常の発ガンと放射線によって誘導された発ガンとの間の共通点・相違点」を3つの領域(疫学、動物モデル、分子・細胞)の研究成果を通して考えることを目的としています。また、後半では、DNA修復、放射線治療耐性がん細胞の解析、細胞周期、ストレス防御機構の観点から、放射線抵抗性の獲得分子機構を考えます。

■日程

8月8日

発がん概論(中釜齊 国立がん研究センター研究所)
放射線発がんの疫学(秋葉澄伯 鹿児島大)
ゲノム疫学(林奉権 放射線影響研究所)

8月9日

放射線発がんの動物研究(島田義也 放射線医学総合研究所)
ゲノム維持に関わるがん抑制遺伝子(田内広 茨城大)
放射線発がんに関わるがん抑制遺伝子(柿沼志津子 放射線医学総合研究所)
放射線感受性遺伝子(今井高志 放射線医学総合研究所)
放射線発がんの起源を考える(渡邊正己 京都大)

8月10日(若手放射線生物学研究会との共同企画)

放射線誘発DNA二本鎖切断発生後の修復経路決定メカニズム (柴田淳史 群馬大学)
臨床的放射線耐性細胞の克服に向けて (桑原義和 東北大学)
がん治療の真の標的「がん幹細胞」の静止期維持機構とその打破 (武石昭一郎 九州大学)
転写因子Nrf2の活性制御メカニズムと病態 (田口恵子 東北大学)

平成27年8月8日(金)~10日(日)

京都大学原子炉実験所 事務棟会議室

■申込方法:

- ・登録料や受講料は一切不要。
- ・旅費、宿泊費等は人材育成事業の経費より支出。
- ・受講を希望される方は、以下のURLから「参加登録」へ。

<http://house.rbc.kyoto-u.ac.jp/hito8996/index.htm>